

令和４年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		今年度の重点目標	1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。	2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。		
	3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。			

年 度 当 初					中 間 評 価・最 終 評 価	
評価項目	具体項目	現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	○授業評価アンケート 「わかりやすい」 90.7% 「先生の熱意を感じる」 92.1% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置により、落ち着いた学習環境を保つことができている。 ○ICT活用研修会を実施する等、令和４年度１年次生の授業からChromebookを使用するための準備を行った。 ○パフォーマンス評価の実施に向けて準備を始めた。	○わかる授業を推進 授業評価アンケート 「わかりやすい」 90%以上 「先生の熱意を感じる」 90%以上 ○個に応じた学習指導の実施	○日常の授業公開の実施 ○授業評価アンケートを活用した授業改善 ○各教科でのルーブリック作成とパフォーマンス評価の導入 ○ICTの積極的な活用 ○米東サポーターの活用		
	特別支援教育の充実	○スクールカウンセラーによる個人面談を実施し、生徒への適切な対応に繋げている。 ○SCとのコンサルテーションを定期的に実施しているほか、生徒理解研修会、QU研修会、日々の夕礼・終礼等で、生徒の状況、対応について職員間で共有しケース会議も行っている。 ○外部機関と連携し、生徒の進路選択・進路決定に向けて、サポートも行っている。 ○不登校傾向の生徒について、SCによるコンサルテーションを実施したほか、SSWや市の子育て支援課と連携し、支援に努めた。	○教育相談体制、特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の充実 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員の有効活用	○全職員による生徒情報の共有並びに支援 ○SC、米東サポーター、SSWの積極的な活用 ○QUの有効活用 ○特別支援教育支援員の支援活動計画の作成 ○教職員の外部研修への参加推進		
	進路指導の充実	○３年次生に対し、４月からCAによる個人面談を実施した。 ○面接練習や個別指導等に全教職員が関わった。 ○就職内定率100%、進学決定率100%だった。 ○進路だよりの発行、ビジネスマナー講習会・地元企業／事業所見学・進路説明会および生活時間調査の実施によって、進路意識を高め、生活習慣を改善する者も見られた。 ○３年次生の進学希望者に業者テストを実施した。 ○保護者懇談では、１年次から積極的に進路の話をして、進路選択・進路決定に向け早い時期からの意識づけに努めた。 ○1、２年次生から進路に対する意識を高める必要がある。 ○CAによる定時制教職員対象の進路指導研修会を実施した。	○就職内定率及び進学決定率100% ○就職指導、進学指導の充実 ○進路意識の醸成	○HR、面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○ビジネスマナー講習会、地元の事業所・学校見学の実施 ○CAによる進路指導研修会、1・2年次生対象の進路説明会・進路面談の実施 ○進路決定者に対する事後指導の充実		
	キャリア教育の充実	○キャリア・パスポートを作成する際、対話をしながら過去の振り返りを行った。２回目の記入の際は１回目の記入の状況を見て、より取り組みやすいものに整えて実施し、自己理解に繋がった。 ○潜在的な進路希望を読み取るため、キャリア・パスポートを活用した。 ○将来を見通すことができず不安を抱えた生徒がいる。	○進路意識の早期啓発 ○キャリア意識の醸成	○キャリア・パスポートの活用 ○生徒会企画や定通教育充実事業等による地域との連携		
2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○各部活動顧問と連携し、スムーズな部活動運営を行った。 ○生徒会執行部会を開催し学校行事の活性化を図った。 ○生徒の主体的な活動を積極的に取り入れ、その取り組みの一部は学校だよりや学校HP、新聞・テレビ等の報道各社を通して地域に発信した。	○生徒会活動や部活動、学校行事への生徒の主体的な取組の推進	○生徒の主体的な活動のための内容の工夫 ○学校HPの更新回数を増やす ○生徒会役員との連携強化		
	社会で役に立つ体験的活動の実施	○コロナ禍においても感染予防対策を講じ、アウトドア体験・地元の資源体験を実施した。 ○地元の資源体験は、新たに「ビザ作り・大山寺周辺の散策」を実施した。	○地域に根ざした教育活動 ○体験的な活動による豊かな心の育成	○体験活動先との連携強化 ○新たな体験先の開拓		
	人権感覚豊かな生徒の育成	○２度の人権教育講演会を実施し、このうち１回はコロナ禍にあってオンラインで実施した。 ○生徒は話し合い活動により自他尊重の体験をしている。	○人権LHRの充実 ○各領域での人権意識の育成 ○共に安心できる集団の形成	○人間関係作り、コミュニケーション能力育成のための教材の工夫		

	社会参画できる生徒の育成	○高等学校課事業や定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○授業や講演会等において、マナーについての理解を深めている。	○マナーを守り居心地の良い集団の形成 ○地域を理解し、地域の力になろうとする意識の育成	○新たな事業による体験的活動の充実		
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○生徒は基本的には落ち着いた学校生活を送っている。 ○一部の生徒に規範意識の低さが見られるため、指導を継続する必要がある。 ○職員間で生徒情報を交換、共有している。 ○始業時・終業時のあいさつをきちんとできる生徒がいる。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発件数3件以下 ○皆勤及び精勤15名	○教職員間の情報交換の実施 ○生徒への日常の声かけの徹底 ○規律ある学校生活の徹底 ○保護者との連携		
	家庭との連絡の緊密化	○欠席や遅刻について、学校に連絡する習慣が身に付いており、無断欠席はほとんど無いが、欠席・遅刻・早退が続く生徒に対して保護者との連携を強化する必要がある。 ○あいさつや言葉遣いに対して、意識の高い生徒がいる一方で、スマートフォンが手放せない生徒もいる。	○欠席の多い生徒に対する支援の見直し ○保護者への学校理解の促進	○学校だよりや学校HPによる学校のエデュケーション活動の発信 ○家庭連絡や保護者面談による連携		
	【体】育、【食】育の推進	○定時制夜間給食や「食」のアンケート、「食」の講演会において「食」に対する理解を深めている。 ○鳥取県定時制通信制総合体育大会や鳥取県生徒会連盟大会、保健体育の授業の他、新たに、生徒会企画で定時制大運動会を実施した。	○健康に対する意識の向上 ○日常の生活時間の見直し	○「食」のアンケートの実施 ○生活時間調査の実施 ○定時制夜間給食の実施		
	よりよい学習環境の整備	○ゴミの分別に取り組んでいる。 ○清掃活動は主に7月・12月・2月に実施した。 ○学習室のゴミ箱を生徒自ら管理させ、ゴミは各自で持ち帰る指導を行った。 ○日頃は当番制で、行事の日は教職員で一斉に使用教室の消毒を行っている。	○校内環境の整備 ○HRの時間に全生徒と教員で清掃活動 ○日頃の消毒作業	○ゴミの分別や減量化についての指導実施 ○日頃の清掃活動と消毒作業		
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○コロナ禍にあって、一部予定どおりに実施できなかった事業もあるが、実施時期や実施内容を再検討してできる範囲で実施した。 ○主査と副査とが連携しながら分掌業務を行っている。 ○長期休業中はタレ・終礼を行わない期間とした他、リフレッ週を設定した。 ○教育目標の達成に向け、全教職員が一層連携して取り組みたい。	○円滑な業務の遂行	○計画的な事業の実施 ○分掌内における業務分担の見直し		

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要